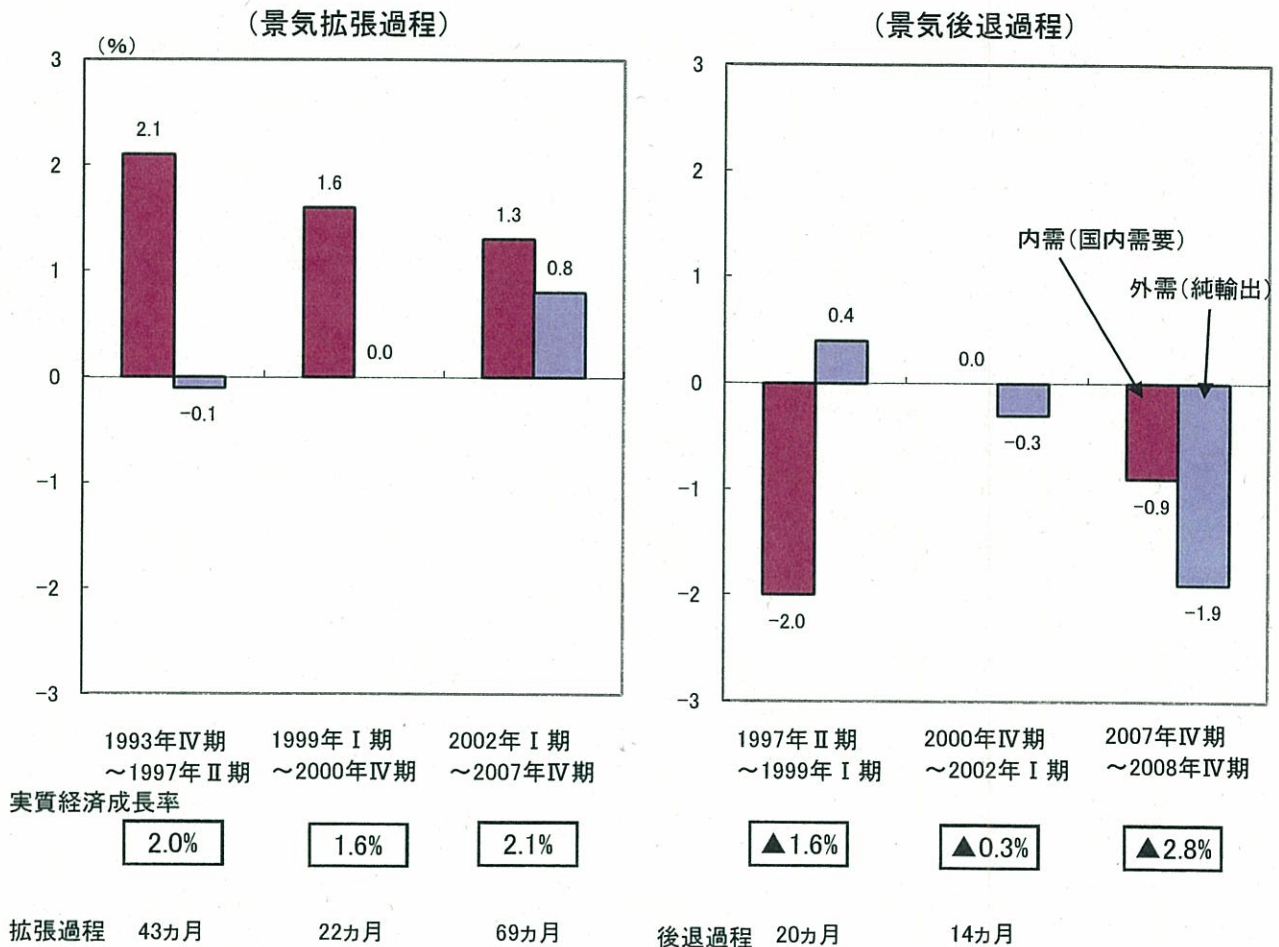


景気循環ごとにみた経済成長率と内外需別寄与



資料出所 内閣府「国民経済計算」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて推計

(所得、消費の停滞と外需に依存してきた我が国経済)

- 1990年代以降の景気拡張過程をみると、2002年からの拡張過程は拡張期間は長かったが、内需寄与は最も小さく、外需の寄与は際だって大きい。また、景気後退過程をみると、2007年に景気の踊り場的な状況を迎えた我が国経済は、2008年秋に世界経済の減速が始まると、景気回復の牽引力を外需に依存してきたが故に、大きな経済収縮に直面することとなった。
- 我が国経済は、2007年後半から2008年央までの高い物価上昇により実質所得、消費が停滞し、その後、輸出と生産の落ち込みによって雇用情勢の急速な悪化に直面しているが、その底流には、2002年からの景気回復そのものの弱さがあった。経済成長の成果を勤労者生活へと行きわたらせることができず、内需の停滞を招くとともに、外需の縮小が、そのまま我が国経済の収縮へと直結した。
- 今後、国内需要を着実に回復させていくためには、雇用の安定を基盤にすそ野の広い技術・技能の蓄積と人材育成を通じて、所得を底上げし消費を拡大させるとともに、将来の成長分野で質の高い雇用創出を行うなどの課題に取り組むことが求められる。